

春ちゃんの 虫とり日記 パート5

呉市立広小学校 5年 見世 小春

1 研究しようと思ったわけ

私は、4年間、科学研究「虫とり日記」を続けてきた。虫とりは楽しい。そして、観察して絵に描くのはもっと楽しい。

去年の夏、「手塚治虫原画展」へ連れて行ってもらった。手塚治虫が子どものころ描いた「オサムシ」の原画を見た。小さい虫をこまかい所まで見て描いた原画にびっくりした。

私も5年生になったのだから、つかまえた虫をよく見て描こうと思った。1ぴき1ぴきのよう虫や虫は、それぞれ違った特ちょうをもっていて見ていてあきない。5年生でも「虫とり日記」を続けてみたい。そして、もっとも虫のことが知りたい。

2 研究の計画

- (1) 家や家の周りや畑、近くの公園や川、山や林や池の周りで、虫を見つけをする。
- (2) つかまえた虫を羽や足がきずつかないように気をつけて観察する。
- (3) 虫の細かいところをよく見て絵や文でかく。
- (4) 調べ終わったら、その日のうちに逃す。

3 研究の準備

調べるために必要な物

- | | | |
|--------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 虫とりあみ | <input type="checkbox"/> スマートフォン | <input type="checkbox"/> 割りばし |
| <input type="checkbox"/> 虫かご | <input type="checkbox"/> 色えんぴつ | <input type="checkbox"/> 透明な箱 |
| <input type="checkbox"/> 虫めがね | <input type="checkbox"/> 紙コップ | <input type="checkbox"/> セロハンテープ |
| <input type="checkbox"/> 図かん | | |

4 虫とり日記

昨年度の研究後も「虫とり日記」を継続し、見つけた生き物や昆虫について、捕まえた日、名前、場所や分類、スケッチ、気づき等を記録しています。

- (1) 虫の様子 (R. 4年8月25日~R. 5年8月19日)
【R. 5年7月27日 オオヤマトンボ】

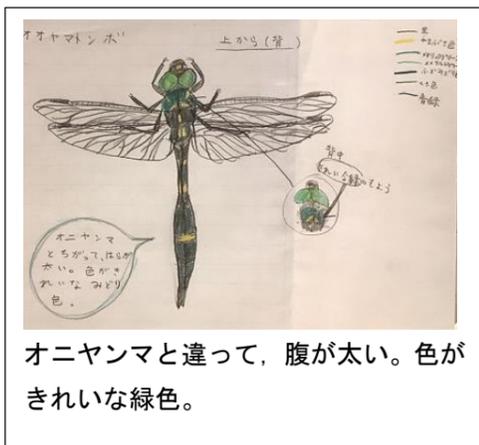


図 1 上から (背中)



図 2 下から (腹)



図 3 正面から

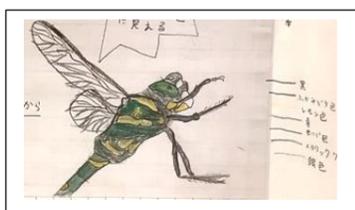


図 4 横から

- (2) 羽化の様子 (R. 5年6月15日, R. 5年6月~7月, R. 5年6月18日, R. 5年7月24日)

【R. 5年7月24日 アブラゼミの羽化】

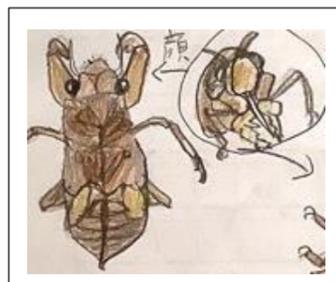


図 5 幼虫の顔

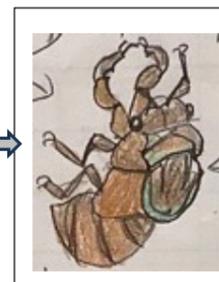


図 6 23:00の様子



図 7 23:10の様子

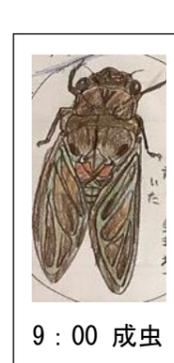


図 8 23:15の様子



図 9 23:35の様子



図 10 9:00の様子

その他にも、「オオムラサキ」の成長を観察したり、「ツマグロヒョウモン」をたくさん育てて、気づいたことを整理したりしています。

5 まとめ

5年間、虫とり観察を続けてきた。羽や目や足などの部分をじっくり観察することでそのこん虫の特徴がわかった。色ぬりをする事で光が当たると色が変わるメタリック色の虫がいることがわかった。ピオトープを作りトンボを育てたり、サナギ部屋を作りチョウを育てたりした。育てていくと成虫になるまで一年間かかるものがあることがわかった。羽化は、夜や朝に行われることが多く観察がしにくい。羽化には、じっとして羽をかわかす時間がある。5年間の科学研究で幼虫や成虫のことがよくわかったので、来年はこれまで観察してきたこん虫を大きくまとめて、私だけの『こん虫図かん』を作りたい。

6 感想

虫とりに行くのが一番楽しかった。でも、今年は暑すぎて虫がいなかった。1ぴきでもつかまえた時、すごくうれしかった。あみから手でつかまえる時は、やさしい気持ちになって、羽や足を傷つけないようにした。ツマグロヒョウモンが24ひきも羽化した。幼虫の時、すみれしか食べなくて、すみれをあげてもあげてもすぐに葉がなくなるので、妹とおばあちゃんが町中の道ばたのすみれを採りに行ってくれた。24ひき生まれた時は、ホッとした。オオムラサキの里へ行って、オオムラサキが羽化するところを見た。3月に行って、越冬幼虫を見ることができた。いつ見ても、かわいい顔をしていた。後藤のおじさんの所にまた行くのが楽しみだ。

今年は、絵を丁寧に描くことを意識した。目や羽や足がよくわかった。みんながほめてくれた。5年生まで虫とりをがんばってきてよかった。楽しかった。

小春さんは5年間、虫とり日記を続けてきました。今年も40種類近くの昆虫を観察し、特徴を捉えて絵を描くことをしてきました。そのことで「変化に気づく目」を養っています。羽化を描く時にも、その成果が現れています。その目は、他の場面でも課題を解決する時の基盤として力を発揮することでしょう。また、小春さんの絵からは、その昆虫と出会った喜びが伝わってきます。コロナ禍で生命について考えることが多い中、希望を感じさせる作品です。